

政教分離

首相による靖国神社参拝が政教分離の原則に反すべきとする意見がある一方で、靖国神社が「宗教者」の慰霊自体に反対する意見もあるが、政教分離の観点から問題視されているのは慰霊の在り方だ。歴史的経緯から、従来通り靖国神社で慰霊す

べきとする意見がある一方で、靖国神社が「宗教者」の慰霊自体に反対する意見もあるが、政教分離の観点から問題視されているのは慰霊の在り方だ。歴史的経緯から、従来通り靖国神社で慰霊す

り、靖国論争は混迷を深めるばかりだ。

小原 克博



同志社大教授
(キリスト教思想)

どの宗教・教派も対等という前提があり、個人の信仰の自由が最大限に発揮される枠組みがある。公的な場から宗教性を排除するのではなく、個

を無分別に持ち込めるのかといえ、そうではない。歴史的には、一つ一つの事象について判断され、社会的合意が形成されてきた。宗教性をどこまで認め、認めないのか、その都度、具体的に線引きしてきたのが、米国でのあり方

れ、仏教やキリスト教などと同等に扱われるようになった。靖国を慰霊の場としてみても、宗教上の問題が多い。米国のアーリントン国立墓地では、あらゆる宗教を持ち込める。これとは対照的に、フラ

靖国とは、いわば欧米列強と向き合ったために明治期の知識人たちが作り上げた人工宗教という一面を持ち、近代の国家的イデオロギーを背負い、存在してきた。百数十年の歴史にすぎず、古代より続く神道からみても異質だ。京都にある神社のように、地域に親しまれる神社などと比べると、かなり性格が異なる。

欧米と異質、慎重対処を

々の宗教をできるだけ多く取り込むかたちになっている。例えば、大統領の就任式に聖書に手を置き宣誓する儀式がある。プロテスタントの国として始まり、キリスト教的な伝統が建国理念を担っているからだが、政治の場に宗教

だ。これに対して、戦後日本の政教分離は、政治から宗教性を排除したフランス型に近い。GHQの神道指令により、国家と神道とのかかわりは完全に否定された。神社は宗教法人としてのみ存続が認めら

ンスでは「ライシテ」（非宗教）の原則のもと宗教色が抜かれていた。しかし、靖国の場合、神道に依拠した慰霊の場ではない。戦没者やその遺族の意志とは無関係に、他

戦前には、神社が国家侵略の先兵となり、アジア各地に建立され、戦敗直後に焼き打ちされた。つまり、アジアの人々にとって、神社は宗教というよりも、日本の国家そのものだった。だからこそ過去に立ち返り、政教分離のあり方について、もっと厳密にか

小泉首相の靖国神社参拝は問題が多い。違憲判決も出ており、法的な決着がついていない。その上、世論調査では国民の多くが反対している。最近では、首相の参拝を正当化しようと、欧米の政教分離を都合良く引き出すケースもあるが、事実をゆがめている。

米国で言う政教分離とは、国教樹立の禁止原則のもと、

を無分別に持ち込めるのかといえ、そうではない。歴史的には、一つ一つの事象について判断され、社会的合意が形成されてきた。宗教性をどこまで認め、認めないのか、その都度、具体的に線引きしてきたのが、米国でのあり方

れ、仏教やキリスト教などと同等に扱われるようになった。靖国を慰霊の場としてみても、宗教上の問題が多い。米国のアーリントン国立墓地では、あらゆる宗教を持ち込める。これとは対照的に、フラ

靖国とは、いわば欧米列強と向き合ったために明治期の知識人たちが作り上げた人工宗教という一面を持ち、近代の国家的イデオロギーを背負い、存在してきた。百数十年の歴史にすぎず、古代より続く神道からみても異質だ。京都にある神社のように、地域に親しまれる神社などと比べると、かなり性格が異なる。

戦前には、神社が国家侵略の先兵となり、アジア各地に建立され、戦敗直後に焼き打ちされた。つまり、アジアの人々にとって、神社は宗教というよりも、日本の国家そのものだった。だからこそ過去に立ち返り、政教分離のあり方について、もっと厳密にか